



そなえよつねに
ボーイスカウト

第 22 回全国スカウトフォーラム 実施報告書



平成 30 年 12 月 22 日(土)~24 日(月・祝)
国立オリンピック記念青少年総合センター

目次

実施概要	p.1
名簿	
参加者	p.3
スタッフ	p.5
日程表	p.6
プログラム内容	
1日目	p.7
2日目	p.9
3日目	p.13
フォーラム宣言	p.15
講評	p.17
資料①フォーラムオリエンテーション	p.19
資料②アンケート結果	p.21
資料③ワークショップ概要	p.33

実施概要

スカウト運動の原点である「スカウトたちの声に耳を傾け、その意見をスカウト運動に反映させていくこと」を実践し、「青少年の意思決定への参画」を、より推進していくことを願い、全国スカウトフォーラムを開催した。

スカウトフォーラムでは、スカウト個々が自己の成長を図り、幅広い社会性を身につけ、相互の理解を深めるための貴重な機会が提供されるように開催される。また、フォーラムでの討議が参加者のみならず幅広く提供されるよう、参加スカウトの気運を高め、各県連盟へフィードバックができることを目指し「メッセージ」に加え、アフターフォーラムの実施に向けた意気込みをまとめた。

基本情報

1. 開催日時：平成 30 年 12 月 22 日（土）～24 日（祝・月） 2 泊 3 日
2. 開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
3. 参加者：県連盟代表 44 県連盟 44 人
4. スタッフ：運営委員 10 人（うち、ファシリテーター6人）
本フォーラムは、日本連盟プログラム委員会の下に「スカウトフォーラム運営委員会」を設置し、全国のローバースカウト年代から公募した。
前回（第 21 回）と同様にローバースカウトが運営委員長を務め、ローバー年代の運営委員会を中心に運営した。
5. 後援：独立行政法人国立青少年教育振興機構
6. 社会貢献：寄付月間 2018 に登録

寄付月間(Giving December)の公式認定企画として実施しました。寄付が人々の幸せを生み出す社会を作り出すために、12月1日から31日までの間、NPO、大学、企業、行政などが協働して行う全国的なキャンペーンです。

テーマ：「私たちにできる社会貢献とは」

スカウティングは、スカウト一人ひとりが「よき社会人」となることを目指しているが、そのためには自らの健康を築き、社会に奉仕できる能力と人生に役立つ技能を会得していく必要がある。今、社会では災害が起きると多くの人たちが、ボランティア活動に参加するようになった。被災した人々の救助等には多くのNPOが活動しており、「社会貢献活動」に積極的に取り組む企業も増えてきた。さらに「ふるさと納税」も寄付により社会貢献できる仕組みであり、多くの人が寄付を行っている。

私たちスカウトは、この運動が始まった時から、さまざまな奉仕活動、募金活動等に取り組んできた。スカウト活動が、今後、それぞれの地域社会の中で、地域の人々、行政、企業、NPO等と連携しながら、どのような活動に取り組めるかを実際の活動の体験等を通じて考えながら、全国のベンチャースカウトを巻き込んで活動を行うきっかけとなる「メッセージ」をまとめる。

成果物として、全国のベンチャースカウトに呼び掛ける「メッセージ」をまとめた。これは、全国スカウトフォーラムで議論されたことをより多くのベンチャースカウトに共有する際に当事者意識を持ち、スカウティングに取り組むきっかけとなるものを目指した。

また、これまでの全国スカウトフォーラムの課題ともされた地域ごとによる実現の可能性とアフターフォーラムの実施を改善すべく、具体的なアクションプランをアフターフォーラムにてまとめ、磨き上げる流れを提示した。

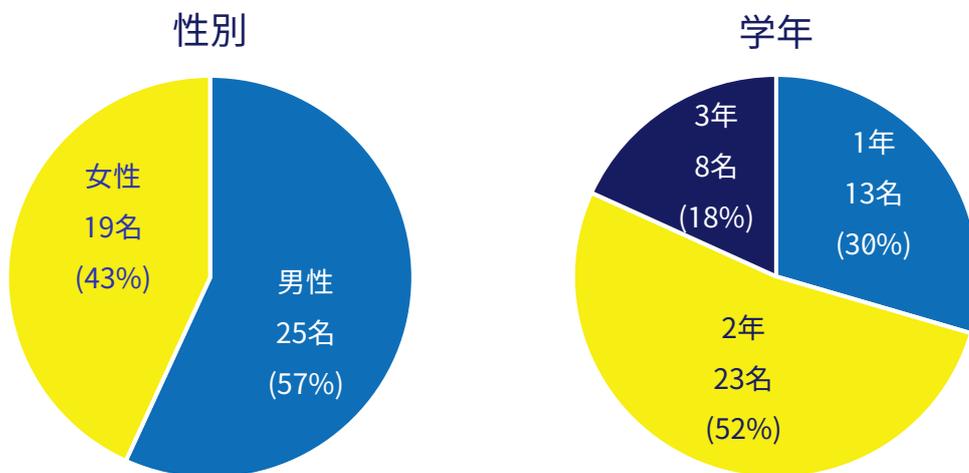


参加者名簿

No.	県連盟	所属団	氏名	性別	学年	グループ
1	北海道	札幌第10団	小野 愛実	女	高2	5
2	青森	むつ第2団	齋藤 有初	女	高2	4
3	岩手	釜石第2団	菊池 桐子	女	高2	6
4	宮城	仙台第1団	新井 彩子	女	高1	3
5	秋田	秋田第31団	佐藤 託海	男	高1	2
6	山形	山形第1団	武田 蒼	男	高2	1
7	福島	福島第1団	金成 桃	女	高2	2
8	茨城	結城第1団	齊藤 光紀	男	高3	2
9	栃木	宇都宮第1団	榎井 悠翔	男	高1	6
10	群馬	桐生第5団	吉田 梓	女	高2	2
11	埼玉	坂戸第1団	石井 柊	男	高3	3
12	千葉	流山第3団	伊藤 芳治	男	高2	4
13	神奈川	川崎第39団	滝沢 海偉	男	高3	6
14	山梨	甲府第3団	豊山 幸尚	男	高2	5
15	東京	練馬第6団	糸川 愛留	女	高1	1
16	新潟	新潟第15団	加藤 凌	男	高1	4
17	富山	富山第17団	山本 敦尚	男	高3	3
18	石川	金沢第2団	稲葉 大樹	男	高2	1
19	福井	敦賀第2団	高岡 幸那	女	高1	5
20	長野	立科第1団	竹重 佑莉	女	高2	6
21	岐阜	大垣第7団	林 明日香	女	高1	2
22	静岡	浜松第12団	中嶋 みと葉	女	高2	3
23	愛知	豊川第4団	岡田 瑠生	男	高2	4
24	三重	鈴鹿第1団	西川 耕平	男	高3	5
25	滋賀	大津第21団	奥山 綾香	女	高1	5
26	京都	京都第45団	村田 祥大	男	高2	4
27	兵庫	西宮第25団	土井 駿斗	男	高2	1
28	奈良	北葛城第7団	轟 大空光	男	高3	2
29	和歌山	和歌山第2団	中原 奏汰	男	高1	6
30	大阪	寝屋川第7団	中島 優	男	高2	3
31	鳥取	鳥取第2団	村上 匠	男	高2	1
32	島根	出雲第1団	中尾 彩乃	女	高2	2
33	岡山	高梁第1団	太田 裕子	女	高1	4

34	広島	安佐第 6 団	津崎 空	男	高 2	5
35	山口	岩国第 1 団	岑 綾音	女	高 1	3
36	徳島	選出なし				
37	香川	観音寺第 5 団	川原 朱理	女	高 1	1
38	愛媛	新居浜第 2 団	真野 優華	女	高 2	6
39	高知	選出なし				
40	福岡	北九州第 3 団	立野 晃太郎	男	高 1	5
41	佐賀	佐賀第 5 団	鶴田 哲大	男	高 2	3
42	長崎	大村第 1 団	坂口 大河	男	高 2	2
43	熊本	八代第 5 団	内田 早映	女	高 3	4
44	大分	大分第 2 団	古木 宇宙	男	高 2	6
45	宮崎	日南第 2 団	中武 理乃	女	高 3	1
46	鹿児島	鹿児島第 18 団	行友 優太	男	高 2	3
47	沖縄	選出なし				

合計 44 名



スタッフ名簿

運営委員会

役職	氏名	所属
運営委員長	内田 早紀	熊本県連盟 八代第 5 団
プログラム	石川 翔太	愛知連盟 名古屋第 109 団
プログラム	袴田 真由	静岡県連盟 浜松第 12 団
生活・セレモニー	加藤 大貴	岩手連盟 盛岡第 5 団
ファシリテーター	荒川 日向子	愛知連盟 名古屋第 29 団
ファシリテーター	山路 卓	福岡県連盟 北九州第 5 団
ファシリテーター	吉川 直希	RCJ 運営委員会(愛媛・新居浜第 2 団)
ファシリテーター	石橋 知樹	奈良県連盟 生駒第 4 団
ファシリテーター	横山 正市	青森県連盟 青森第 2 団
ファシリテーター	枝迫 雄大	東京連盟 世田谷第 10 団
アドバイザー	佐藤 成	日本連盟 プログラム委員会
アドバイザー	中村 友一	日本連盟 プログラム委員会

吉川委員は RCJ 運営委員会からの選出

基調講演講師

役職	氏名	所属
講師	大石 俊輔	日本ファンドレイジング協会
事例紹介	瀬上 倫弘	国際連合世界食糧計画 WFP 協会
事例紹介	中野 秀美	特定非営利活動法人 ACE
事例紹介	橋爪 智子	日本補助犬情報センター
事例紹介	須田 洋平	NPO 法人サードプレイス

日本連盟

役職・所属	氏名
コミッショナー	福嶋 正己
プログラム委員長	榊原 孝治
事務局 教育開発部	吉村 敏
事務局 教育開発部	平岡 努
事務局 教育開発部	渋谷 健太郎

日程表

	12/22	12/23	12/24
6:00		起床 部屋の清掃	起床 部屋の清掃
6:30			
7:00		朝食	朝食 荷物整理、移動
7:30			
8:00		朝礼	朝礼
8:30		ワークショップ②	RCJ プレゼン
9:00			全体会 (個人ワーク含む)
9:30			
10:00			
10:30			
11:00			ワークショップ振り返り
11:30			
12:00	受付開始	昼食	参加者解散
12:30			
13:00	開会式 生活オリエンテーション アイスブレイキング	フォーラムオリエンテーション	
13:30		分科会①～③	
14:00			
14:30	ワークショップ①		
15:00			
15:30			
16:00			
16:30		分科会④ (前半)	
17:00			
17:30	夕食	夕食	
18:00			
18:30		共有と交流 グループごと発表 全体発表	分科会④ (後半)
19:00			
19:30	議長団選出 22SF 後の流れ		
20:00			
20:30			
21:00	部屋移動	入浴	
21:30	入浴		
22:00	交流会	自由時間	
22:30	消灯	消灯	

プログラム内容まとめ

1 日目：12月22日（土）

集合受付（12:00～13:00）

12:00 前から会場入りするスカウトの姿が見られた。ファシリテーターが立ち会場まで誘導し、メイン会場前にて受付を行った。受付時には名札を配って、自分のグループを確認した。

開会式・生活オリエンテーション（13:00～13:30）

開会式では、日本連盟を代表して榊原プログラム委員長からご挨拶をいただき、続いて内田実行委員長による挨拶をいただいた。その後、生活を担当する加藤委員より施設利用やフォーラム期間中の生活に関する注意事項などが伝達された。

アイスブレイキング（13:30～14:30）

ファシリテーターが中心となり、3種類のアイスブレイクを行った。1つ目は他己紹介。初めて顔を合わせるメンバーであり、最初は表情も硬かったのだが、自己紹介から他己紹介をしていくうちに、参加者の表情もほぐれていった。2つ目は、名前八百屋さん。世間的によく知られている八百屋さんゲームをアレンジした。野菜の名前を各自の名字に変え、また名字のイニシャルで始まる形容詞も付けた。（例：いじられる - 石橋）覚えるのに苦労しているようだったが、終わるころには笑顔が増え、互いに名前と呼べるようにもなっていった。3つ目は、ジェスチャー推理ゲーム。机の上にペットボトルやファイルを用意し、それを何かに例え（例：釣り竿等）班内で意見がどれくらい出るか、というゲームを行った。このゲームはフォーラムにおいて「発表をする」という観点で、デモンストレーションの意味合いもあった。「発言をする」という狙い通りはじめ静かだったスカウトも意見を出せるようにもなっていた。



ワークショップ前半（14:30～17:30）

講師：日本ファンドレイジング協会 マネージング・ディレクター 大石 俊輔 氏

内容：社会貢献を巡る現状と、NPO と協働してできる社会貢献

※詳細は p.32 「資料③ワークショップ概要」を参照



共有と交流（19:00～21:00）

前半は、県フォーラムの成果をグループごと全員が発表し、共有する時間とした。後半は、投票数の多かった以下の4県連盟代表者の発表と、それに対する質疑応答の時間とした。県フォーラムの討議内容をまとめた模造紙を会場内に掲示し、参加者の投票によって全体発表者を4名選出した。

愛知連盟代表	豊川第4団	岡田瑠生
兵庫連盟代表	西宮第25団	土井駿斗
福井連盟代表	敦賀第2団	高岡幸那
岩手連盟代表	釜石第2団	菊池桐子



2日目：12月23日（日）

朝礼・モーニングゲーム（8:00～8:30）

大会2日目。清々しい朝を迎え、全員で朝礼、モーニングゲームを行った。ファシリテーターやスカウトのことはもあり、決意新たに2日目の活動が始まった。



ワークショップ後半（8:30～10:55）

※前半部分と同様に、詳細は p.32 「資料③ワークショップ概要」を参照

ワークショップの振り返り（11:00～12:00）

ワークショップを実施後、それを踏まえて「スカウトとして」何ができるのかを考える場として実施、改めて県フォーラムでのアクションプラン・採択文などをグループ内で共有を行い、それを元にフォーラムへ進行を行なった。



フォーラムオリエンテーション（13:00～13:30）

内田実行委員長より、フォーラムの意義・フォーラムの進め方・分科会と全体会における到達目標・アフターフォーラムについて等、スライドを用いて説明があった。

※詳細は p.18 「資料①フォーラムオリエンテーション」を参照

分科会 1～3（13:30～16:30）

参加者が6つのグループに分かれ、分科会を行った。分科会1では「企画・計画」、分科会2では「実行」、分科会3では「報告・評価」というプログラムプロセス段階について、活動における各段階での課題を共有、課題を解消しプログラム実現・成功につながるように、討議を深めた。また、グループ内役割を明確にし、円滑な議論進行に努めた。

グループ1 担当ファシリテーター：荒川			
県連盟	氏名	性別	学年
山形	武田 蒼	男	高2
東京	糸川 愛留	女	高1
石川	稲葉 大樹	男	高2
兵庫	土井 駿斗	男	高2
鳥取	村上 匠	男	高2
香川	川原 朱理	女	高1
宮崎	中武 理乃	女	高3

グループ2 担当ファシリテーター：山路			
県連盟	氏名	性別	学年
秋田	佐藤 託海	男	高1
福島	金成 桃	女	高2
群馬	吉田 梓	女	高2
茨城	斉藤 光紀	男	高3
岐阜	林 明日香	女	高1
奈良	轟 大空光	男	高3
島根	中尾 彩乃	女	高2
長崎	坂口 大河	男	高2

グループ3 担当ファシリテーター：吉川			
県連盟	氏名	性別	学年
宮城	新井 彩子	女	高1
埼玉	石井 柊	男	高3
富山	山本 敦尚	男	高3
静岡	中嶋 みと葉	女	高2
大阪	中島 優	男	高2
山口	岑 綾音	女	高1
佐賀	鶴田 哲大	男	高2
鹿児島	行友 優太	男	高2

グループ4 担当ファシリテーター：石橋			
県連盟	氏名	性別	学年
青森	齋藤 有初	女	高2
千葉	伊藤 芳治	男	高2
新潟	加藤 凌	男	高1
愛知	岡田 瑠生	男	高2
京都	村田 翔大	男	高2
岡山	太田 裕子	女	高1
熊本	内田 早映	女	高3

グループ5			
担当ファシリテーター：横山			
県連盟	氏名	性別	学年
北海道	小野 愛実	女	高2
福井	高岡 幸那	女	高1
山梨	豊山 幸尚	男	高2
三重	西川 耕平	男	高3
滋賀	奥山 綾香	女	高1
広島	津崎 空	男	高2
福岡	立野 晃太郎	男	高1

グループ6			
担当ファシリテーター：枝迫			
県連盟	氏名	性別	学年
岩手	菊池 桐子	女	高2
栃木	榎井 悠翔	男	高1
神奈川	滝沢 海偉	男	高3
長野	竹重 佑莉	女	高2
和歌山	中原 奏汰	男	高1
愛媛	真野 優華	女	高2
大分	古木 宇宙	男	高2



分科会 4 (16:30～17:30 / 18:30～20:00)

分科会1～3でグループごとに話した「企画・計画」「実行」「報告・評価」の分野の中から、同じ分野を選択したグループが一緒となり、課題の共有と話した内容の整理を行なった。

グループ1・3：企画・計画

グループ2・4：実行

グループ5・6：報告・評価



議長団選出（20:00～21:00／22:00～）

各グループから議長団を1名ずつ選出し、議長団の中で全体会に向けて役割分担を決めた。分科会4で話し合った内容を基に、フォーラム宣言の案を考えた。



全国スカウトフォーラム後の流れ（20:00～21:00）

まず、スカウトフォーラムがどのような流れであるのか、アフターフォーラムはどのようなものなのかを説明、その後どのようなアフターフォーラムにしたいのか、いつ頃にやりたいのか、どのようなことを行わなければならないのか、仲間にどのようなことを伝えたいのかを考え、シートに記入した。



3日目：12月24日（月）

朝礼・モーニングゲーム（8:00～8:30）

大会3日目。フォーラム参加者による朝礼を行った。その後、クリスマスイブ当日ということもあり、プレゼント交換として参加者全員でスカウトグッズを交換しあった。



RCJ 紹介（8:30～9:00）

RCJ 運営委員会から選出された吉川委員による、RCJ 活動紹介のプレゼンテーションが行われた。RCJ 活動の一例として、APR 参加者による活動紹介も行われた。



全体会（9:00～11:30）

全体会では、フォーラム運営委員に代わり、議長団による進行とした。前日までの討議を基に作成された、「フォーラム宣言」について、質疑応答を繰り返し、確認と承認を行い、「第22回全国スカウトフォーラム フォーラム宣言」を完成させた。その後、決定したフォーラム宣言を受けた、代表スカウト個人の意気込みや行動目標を作成した。



閉会式（11:30～12:00）

全体会において参加者の承認を得た「フォーラム宣言」が伊藤フォーラム議長より福嶋日本連盟コミッショナーへ手渡された。佐藤プログラム委員による講評があり、閉会式を終了した。



フォーラム宣言

ベンチャースカウト主導のスカウト活動を実現させよう！

- ・地域やスカウト同士のつながりを大切にし、活性化させる。
- ・私たちがよりよい社会の実現を目指す。
- ・人々に私たちの活動を伝え、理解を得る。



武田 蒼	川原 朱理	稲葉 大樹	村上 匠	十井 駿斗	栲 理乃
糸川 葵留	坂口 大司	齊藤 光紀	新井 彩子	宍 綾音	山本 敦尚
轟 大空光	中尾 彩乃	佐藤 祐海	杯 明日香	古田 梓	金城 桃
行友 優大	北嶋 叶菜	石井 悠	齋藤 啓大	中島 優	立野 晃太郎
豊山 幸尚	津崎 空	小野 愛実	西川 耕平	高岡 莉那	奥山 綾香
柳井 悠翔	真野 優華	竹重 佑莉	古木 中宙	滝沢 海偉	中原 奈木
村田 祥大	内田 早映	齋藤 有初	大田 裕子	岡田 瑠生	如藤 凌

平成30年12月24日

議長 伊藤 芳治
副議長 菊池 桐子

アフターフォーラムの取り組み

成果物として、全国のベンチャースカウトに呼び掛ける「メッセージ」をまとめました。これは、全国スカウトフォーラムで議論されたことをより多くのベンチャースカウトに共有する際に当事者意識を持ち、スカウティングに取り組むきっかけとなるものを目指しています。

また、これまでの全国スカウトフォーラムの課題ともされた地域ごとによる実現の可能性とアフターフォーラムの実施を改善すべく、具体的なアクションプランをアフターフォーラムにてまとめる、磨き上げる流れを提示し、今後の取り組みを促しました。

第 22 回全国スカウトフォーラム「フォーラム宣言」に関する説明

従前の全国スカウトフォーラムでは、参加スカウトの声をスカウト運動の意思決定に反映させること、また全国共通のアクションプランを作成し、それぞれの地域にて展開が成されることを期待して開催されてきましたが、第 22 回全国スカウトフォーラムでは、参加者だけによる議論のための議論で終わることがないように、全国共通のアクションプランは作成していません。

今回の全国スカウトフォーラムでは、ここに至るまでに実施された県連盟スカウトフォーラム等において採択されたもの（採択文やアクションプランなど）を第一に尊重し、参加者だけの議論で終わることがないように、全国共通のアクションプランは作成していません。

参加スカウトがフォーラムを通して活動へのヒントを見つけるだけでなく、モチベーションの向上を図りつつ、今回のテーマに沿った基調講演やスカウト主体の分科会や全体会といったプログラムを、参加スカウト自身の自治を促しながら展開しました。

最終日にまとめられた「フォーラム宣言」は、参加した代表スカウトそれぞれの県連盟や地域の実情を理解・尊重し、今後ベンチャースカウトにより全国で展開される活動（プロジェクト化）が同じ想いで進めていけるようにと、全国の仲間たちへ投げかけた「メッセージ」です。

この「フォーラム宣言」には ①ボーイスカウト活動で得たものを社会で活かしていくこと ②そのためにボーイスカウトに限らず仲間や協力者を得ること ③スカウト活動を広く社会へ発信することが重要であるとの思いが込められています。

ベンチャー隊指導者・地区・県連盟担当者の皆様へ

<フォーラム宣言を踏まえた活動（プロジェクト化）への支援に関するお願い>

2018年に開催された各県連盟スカウトフォーラムにおいて採択されたアクションプラン等の具現化にあたり、今回の「フォーラム宣言」がその起爆剤や心の拠り所として活用されるよう、第 22 回全国スカウトフォーラムに参加した代表スカウト自らによる経緯の説明や報告の場となるアフターフォーラム等の開催支援をお願いします。

今後、ベンチャースカウトがフォーラム宣言を踏まえた活動（プロジェクト化）を進めていく中で、次の事項につきご留意願います。

- 活動単位は、個人、グループ、地区でも構いませんが、プロジェクト法を活用ください。
- ベンチャープロジェクトとして取り上げて頂いて構いません。
- スカウトによる自由な発想、活動の展開が創造されるような雰囲気作りに努めてください。
- 目的（何を）・目標（どのレベルまで）を決めてスタートしてください。その場合、目標（どのレベルまで）は3～5個程度決めておくと、後の展開と支援がスムーズに進みます。
- NPOやガールスカウト等の諸団体を訪問する場合は、詳細な打合せをお願いします。
- 地球規模での考察は重要ですが、風呂敷を広げ過ぎて活動が頓挫しないようご指導ください。
- ベンチャー隊指導者同士のネットワークの是非ご活用ください。

それぞれのお立場から広く周知されるようご協力頂きますとともに、ベンチャースカウト活動（プロジェクト化）の実現に向けたご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

講評

プログラム委員 佐藤 成

全国スカウトフォーラムは、青少年の声をスカウト運動に反映させていくことを目的に開催されてきました。これまでに、「スカウトの日」や「シニアスカウト大会」の開催や環境保護章や防災章といった技能章の制定など、ベンチャースカウト年代の声が青少年プログラムに反映されてきました。第22回全国スカウトフォーラムでは、「私たちにできる社会貢献とは」をテーマに、上記の目的に加え、次の2点を新たな課題として展開しました。

- ①スカウト活動がメンバーだけの内向な活動に陥らないように、社会との連携を視野に入れること
- ②全国フォーラムの採決が終着点にならないように、その声が全国のベンチャースカウトの活動に反映されること

フォーラムの冒頭では、実社会のなかで様々な課題に取り組むNPO団体との意見交換のワークショップを通して、私たちにできる社会貢献の可能性について考えを深めました。そして、参加者が各県連盟における仲間たちと考えた意見やアクションプランを発表し、それぞれの意見を述べ、時にはぶつかり、そして理解し、議論を重ね、「フォーラム宣言」にまとめあげました。各県連盟での環境の違いや様々な課題、参加者それぞれの考え方や意見の違いもありましたが、最後にはまとめることできたのは、スカウトが「ちかいとおきて」という「同じ志」をもった仲間であるからだと改めて確認することができました。

この「フォーラム宣言」はシンプルですが、各県連盟でのフォーラムで議論を重ねてきたそれぞれの地域の課題やその課題へのアクションに対して、全国のベンチャースカウトが目指すべき方向を示すメッセージとしてまとめられたものです。今後、このメッセージを受けて、各県連盟や各地域でアフターフォーラムが開催され、アクションプランに反映されることをねらいとしています。各地域や隊、または個人の活動に全国スカウトフォーラムで深められた「決意」が加わり、さらに意義のある活動として実行されることが期待されます。

フォーラム中の参加者の発言や採択した「フォーラム宣言」には、3つの「決意」が表れていました。

- ①スカウト活動で得たスカウトスキルを社会のために生かしていかなければならない
- ②そのためには仲間を増やさなければならない
- ③もっとスカウト活動を仲間や社会に発信しなければならない

これはまさに今、日本のボーイスカウトが掲げている大きな目標であり、そのことを全国から集まった若いスカウトたちが取り組むべきこととして掲げてくれたことは、今回のフォーラムにおいて深い議論がされた結果と評価します。ボーイスカウトにおける自分たちの活動に誇りを持ち、その活動の価値と将来性について高めていこうとする姿勢を強く感じることができました。各県連盟では活動環境や人数の違いはありますが、自県のベンチャースカウトや後輩たちのリーダーとなるスカウトが、各都道府県に、必ず1人いることをこの目で確認することができ、大変心強く思いました。

最後に、このフォーラムにおける成果を導き出したのは、運営委員会10名のローバースカウトの活躍です。数カ月に渡り準備をしていただき、フォーラム期間中は悩み、反省しながら参加者を献身的にサポートしてくれた、内田委員長をはじめとする運営委員会に感謝申し上げます。



資料① フォーラムオリエンテーション

スカウトフォーラムについて

22nd SCOUT FORUM in TOKYO

スカウトフォーラムについて



本フォーラムでは、テーマである「私たちにできる社会貢献とは」に基づき、全国に仲間を持つ私たちスカウトの視点から各地域の課題点を共有・理解し、解決に向けた方針を話し合います。地域によって異なる課題があることは、認識しているようでそうではないことも多く、このスカウトフォーラムの場で話し合った解決策が全

ての地域にとって適切かと考えるとそうではないこともあります。そこで、各地域の具体的な解決策すなわちアクションプランについては、アフターフォーラムの実践を通して設定することとし、本フォーラムの期間内には全国の仲間たちに向けて私たちがどのようにありたいか、どのように行動していくべきかの方針を創り上げていきます。

アフターフォーラムの実施

22nd SCOUT FORUM in TOKYO

アフターフォーラムの実施

アクションプランの採択・修正と
その実行に向けた計画

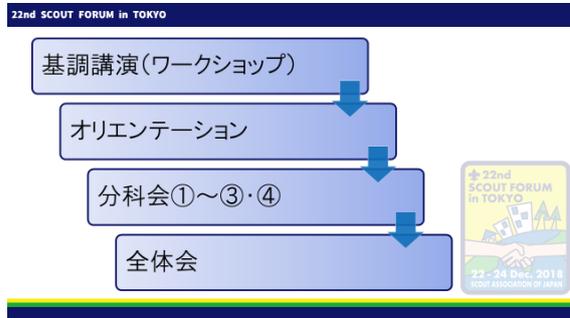
- ◆第22回全国スカウトフォーラムの報告
他県の報告/基調講演(ワークショップ)/分科会で出た意見など
- ◆フォーラム宣言で採択した“メッセージ”を受けてのアクションとは？
どのように実施していくかを計画する

過去のフォーラムでもこの構図は紹介されていますが、今回は特に全国フォーラムからアフターフォーラム、アクションプランまでのステップを重要視しています。

皆さんが得た様々な知識や経験、価値観などを地元の仲間に共有することは代表スカウトの皆さんにとっても有益なもの

であり、皆さんが話し合ったことをさらに広めていくための方法の1つでもあります。そのため、アフターフォーラムでは、フォーラム宣言の共有に加え、どんなプログラムであったか、自分の知っていること・ものとどのように異なっていたかなども共有すると、よりフォーラム宣言の背景も伝わることでしょう。

本フォーラムの流れ



フォーラムオリエンテーションで今回のフォーラムの流れや進め方について説明をし、基調講演となるワークショップでは、地域でどのような社会貢献が展開されているかを学んでもらいます。

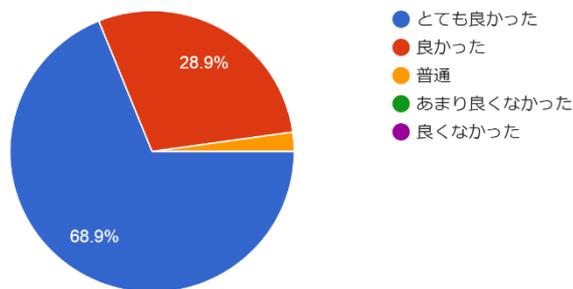
分科会では班内で決めた役割を基に、限られた時間の中で複数の議論に取り組みます。その後、別の班と合同班を作り、より多くの人数での議論に取り組み、意見集約を行います。これは、より良いものを創り上げることを意識して取り組むことがコツです。最後に、全体会でフォーラム宣言の修正を行い、完成させます。

フォーラムの主役であるスカウトの皆さんにとって、より良い宣言文を創り上げましょう！

資料② アンケート結果

事業終了後、Google フォームを用いたアンケートを実施した。参加者全員が回答済みである。各項目のアンケート結果と、参加スカウトからのコメント、そしてそれらを受けたファシリテーター・運営委員長の所感を記す。最後には、参加スカウトからのフォーラムの感想を抜粋して掲載している。

開会式・生活オリエンテーション



分かりやすかった。

初対面の人だらけの中でもとても緊張していましたが、ファシリテーターの皆さんがゲームなどを通して雰囲気明るくしてくれたので、とても楽しかったです！

とても緊張していたけれど、お話を聞く中で実行委員長さんがとてもかっこよくて私もローバーの方みたいに頑張らないとなと思うことができました。

これからスカウトフォーラムが開始することを強く実感させられる式でした。

話をしっかりと聞けた。

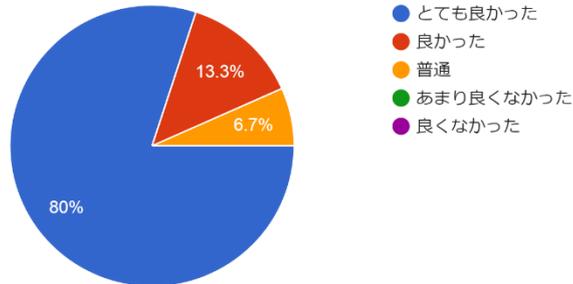
<ファシリテーター>

90%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれている。「フォーラムが開始すると実感した」という感想があることから、開会の式として適切に締まっていたと思う

<運営委員長>

数字の評価、コメントを含め前向きな回答が目立った。程よい緊張感と期待が入り交じり、締まりのある式となった。

アイスブレーキング



緊張がほぐれた。

緊張していたみんなを盛り上げてくれて、すぐに緊張がほぐれた。

緊張は若干ありましたが、面白いゲームでとても楽しめました！

名前に関わったゲームをして、班の仲間の個性がみえておもしろかったです。

お互いにあだ名を付けて呼び合うようにすればもっとはやく打ち解けられたかなと思う。

グループの中での緊張がほぐれました。できれば他グループとの交流もほしかったです。

アイスブレーキングの方法とその名前をもう一度教えてほしい。

全然緊張しなかったし同じグループの人と色々な話ができたとめっちゃくちゃ楽しかったです！

<ファシリテーター>

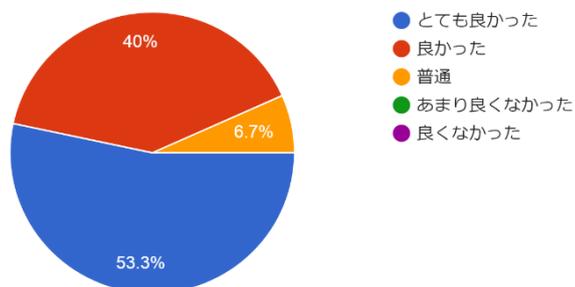
90%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれている。「緊張をほぐす」という役割を十分に発揮できたと思う。また個人の情報(氏名等)を使うことによって互いの個性も見え、次のオリエンテーションにつながられたと思う。

「あだ名をつける」、「他班との交流がしたかった」という意見が出ていたので次回に活かしてほしい。

<運営委員長>

会場施設の関係上、大きな動きや全体での実施には少々手間取っていたが、そのような中でも楽しむことができるスカウトが多く、さすが代表スカウトだと感心させられた。

フォーラムオリエンテーション



ローパーの方々の説明がどの人も分かりやすく、すんなりと理解することができました。進行もキビキビしていました。

全体的な流れはわかりましたが、今回のようなグループ間の認識の齟齬が起きないためにも、フォーラムの目的に向けてわれわれがこの場で取り組むことは何か、どのように取り組むのかをより簡潔に提示し、質問を受け付けるなどして、認識の統一を徹底すると良いと思いました。

それぞれのプログラムの実施の意図がわかりづらかった。

意見などを聞けたし説明もよかった。

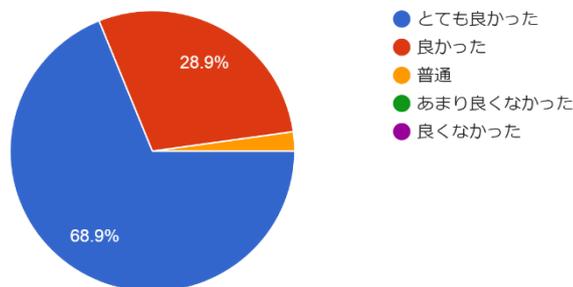
<ファシリテーター>

90%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれている。しかし、のちの分科会について、認識の統一ができていなかったと感じていたスカウトからのコメントもあり、改善できると感じた。

<運営委員長>

オリエンテーション内での質疑応答では声は上がらなかった（説明直後のためであると考察）。見返すことを踏まえてオリエンテーション資料の充実を図るべきである。

共有と交流



もっと時間がほしかった！

他の県の方々の意見を聞いてよかったです。

時間配分が良かった。

投票が多かった県フォーラムの内容をしっかりと聞くことができ、今後の活動の中で役に立ちそうだな、など考えることができた。また、自県と似ている内容のところもあって、これからのアフターフォーラムに生かしていきたいなと思った。

時間が若干短かったように思います。5分と言う中で焦ってしまい、言いたい事が言えなかったりしました。もちろん限られた時間の中でと言うのはとても大事な事だと思うのですが、もう少し各県で考えたことを詳しく聞けたらよかったかなと思いました。

時間配分は良かったです。他県のフォーラムのことも知ることができ、他県の様々な状況も知ることができました。

各県のフォーラムの話を知ることが出来てとてもよかったです！

他県の事例を通じて、自県に反映できるきっかけとなりました。

もう少したくさんスカウトが発表できたらよかったと思った。

あたり前のことだけど各県で考え方は全く違うし面白いなあ〜と思ったし、自分も色々と考えさせられる部分もあったし見習わなきゃいけないなあ〜と思うところもいくつかありました。オ〜!!!さすが、全国！って思った。

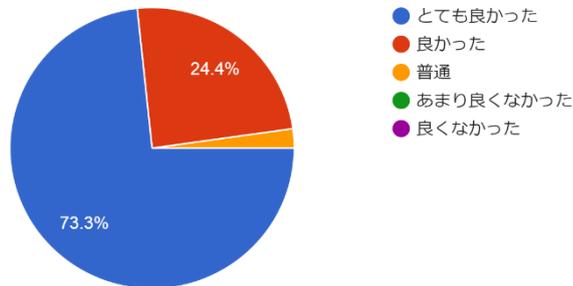
<ファシリテーター>

90%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれている。時間が少ない、短いという意見が見受けられた。それぞれの県の意見を聞きアフターフォーラムにつなげるためこの時間は重要であり、それなりの時間を確保することが必要である。

<運営委員長>

全国各地で様々な課題があり、そのとらえ方も様々であることを認識できたスカウトが多かったように感じる。時間制限について、事前の周知ができていると各スカウトも十分な準備ができたのだろう。

ワークショップ



今まで知らなかったことを知るいい機会になった。ただただ単語ではなく、内容までしっかり抑えることができてよかった。NPO という普段関わることの少ない団体について学べ、社会貢献についてももの見方がとても広がりました。

NPO 法人のことを聴けてとても良かったです。2 日目の発表の部分も NPO 法人の方と一緒にしてみたいです。

実際の社会問題に取り組むことで、社会貢献へのより具体的なビジョンが持てました。

その後の法人ごとにフォーラムで提案した内容についてどう実行されているか。報告はあるのか。

自分が知らなかったことを知れたし色々な事が学べてとても貴重な時間でした。ありがとうございます！

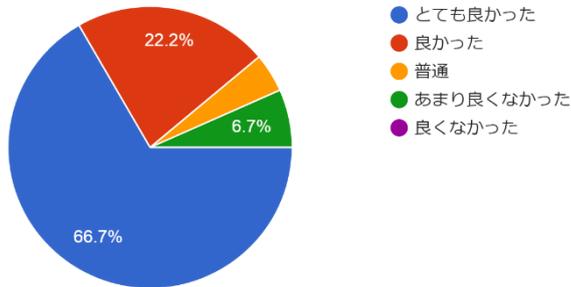
<ファシリテーター>

90%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれている。様々な、社会の問題について深く考え学べたことはよかったと思う。このプログラムを通して社会貢献への詳しいビジョンを持てたことは、のちのプログラムに生かされたのではないかと。2 日目に持ち越された発表にも NPO 法人の方に立ち会っていただけたらよかった。

<運営委員長>

スカウトたちにとって新鮮な価値観を提供することができた。以降の議論にも役にたったのではないだろうか。一方で、発表後のフィードバックについては十分ではないことがうかがえる。あくまで基調講演の一環としての実施であるが、今回の発表がどのように扱われるかなどは初めに明確にしておくべきだろう。

分科会 1 ～ 3



質問が難しかった。

根本的な理解ができなかった。(今やるべきことがよくわからず、理解するのに時間がかかった)

もう少し時間は欲しかったです。ただ、この時間配分だったからこそ、限られた時間の中で話し合う力をつけることが出来たと思いました。

全体会よりもこじんまりと話し合えたので自分の意見も活発に出せてとても良かったです！

自分たちのアクションプランを実行するための pdca サイクルについて考えられました。

話し合いは出来ましたが、何を話し合えばいいのかについては最初は曖昧でした

よくわからなかった。

1つのテーマについて模造紙に付箋を貼ってみんなの意見を出し合っとうまくまとめることができよかった。

<ファシリテーター>

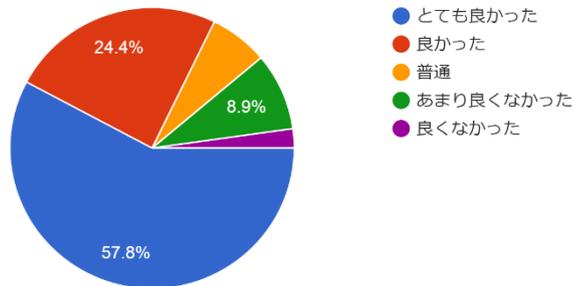
80%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれているが、7%のスカウトがあまり良くなかったと回答している。「何をすればいいかわからなかった」や「よくわからなかった」という意見が目立った。

事前にファシリテーターの中で綿密に意思統一をすべきであるとする。

<運営委員長>

「限られた時間内での議論」を実感することができたという点では、時間配分は十分であったと考えられる。しかし、質問・議論すべき内容の把握に差異があり、混乱を招いた点が各所で見られた。大幅に改善すべき。

分科会 4



終着点がわからなくなった。

方向性が分からなかった。

話し合いなのに戦ってるみたいだった。

他の班の意見を聞いて新たな気づきがあると感じた。

グループ内より意見が言えなかったのが後悔です…。

過去に事例が無いが故に指示の変更が多かったり、理解に時間がかかったりするのだろうけど、曖昧な指示を減らすために、事前の共通認識をより深めておいたり、実行委員とファシリテーター間の迅速な情報伝達をしていただけると嬉しかったと思うことがあった。(上から目線ですみません)

他の班と関わる中で、今まで関わりの少なかったスカウトの意見を聞いて、納得させられることも多く、たくさんのことを学びました。

ファシリテーターの誤認識(?)の為に2班が集まっての話し合いに食い違いが生じてしまいました。

もう1つのグループと合同でテーマについて話し合いました。自分達のグループでは出なかった意見がたくさん出てきたしモメることもあったけどいい話し合いができてよかったです。自分が思ってることもちゃんと伝えました。

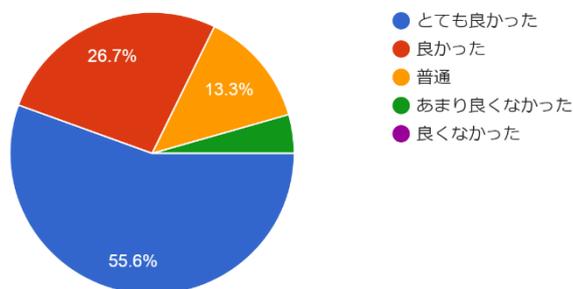
<ファシリテーター>

80%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれているが、良くない、あまり良くないとの回答が11%を占める。「今まで関わりの少なかったスカウトの意見を聞いて、納得させられることも多かった」との意見もあれば、「戦っているみたいだった」との意見もあった。ファシリテーターの立場から雰囲気良く保つ、建設的な話し合いに誘導するなど、より意識できる点はあったと思う。

<運営委員長>

回答が最も分散しており、全体的な満足度は高いものではない。より多くの、すべてのスカウトにとって満足いくような運営となるよう次回に活かしたい。

全体会



話し合っている内容がちょっと違う気がした。反対意見も聞いて欲しかった。

解散後にホワイトボードの内容を見たかったとの意見を頂いたので、いくつかのボードを用意するなど、後から見返せる形をとれるようにして欲しい。

議長団のみなさんの考えや発言をした人の考えを知って、そんな考え方もあるんだと気づかされることがありました。

みんなでひとつのものを作りあげることができてとても良かったです。しかし、予め議長団の話し合いの結果を元に班で話し合う時間が欲しかったです。

活発に議論を交わしました。しかし、それ故に時間は極めて短かったと思われます。今後は ①議長団は宣言案を前日に提示する ②一般出席者は質問文、修正案を班ごとないし各自で議長団に提出する ③議長団はそれを元に説明や、訂正案の用意をする といった内容を事前に行うことで、全参加者がよりフォーラム宣言について吟味した上で、単なる言葉遊びにならない、核心的な内容に関する議論を交わせることを期待します。

発言者同士（議長団以外の人）で意見を交わせたら良かったのかと少し思いました。

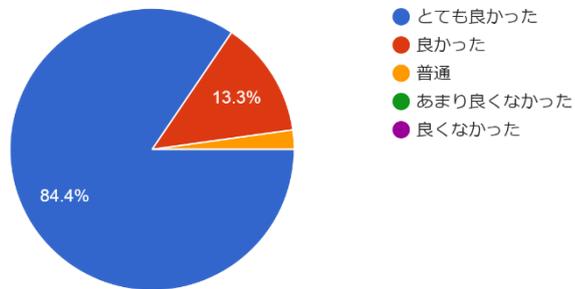
<ファシリテーター>

80%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれているが、4%のスカウトがあまり良くなかったと回答している。「解散後に話し合いの内容を見返せるようにして欲しい。」「議長団から宣言文草案を前日に提示する」「一般出席者は質問文、修正案を班ごとないし各自で議長団に提出する」「議長団はそれを元に説明や、訂正案の用意をする」など、具体的な改善案が上がっているため、次回に活かせるようにしたい。

<運営委員長>

分科会4に引き続き、回答が分散している。運営方法はもちろんのこと、「どのような場であるか」ということを全体で共有しておくとういだろう。事前の共有を希望する意見もあり、今後の成果物の在り方とともに検討していきたい。

閉会式



楽しかった！

最後は泣きそうだった。

寂しい。

開会式のとぎとは違い、自分や仲間、3日間行ってきたことに誇りをもって参加することが出来ました。

最後に弥栄とかしたかったです(笑)

全参加者のつながりを深める有意義な場でした。

もー、3日間とかすごくあつという間だしせっかく良い仲間達と出会えたのにバイバイするのがめっちゃくちや嫌でした。寂しくて泣いてしまった(泣)

<ファシリテーター>

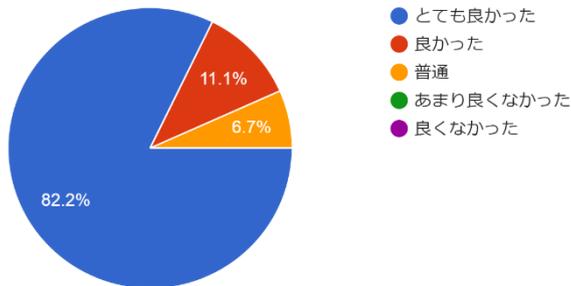
90%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれている。

締めくくりとして、スカウトにとって良いものになったと感じる。

<運営委員長>

前向きな意見が多く、今後に向けた意気込みも感じられる式となった。最後に「弥栄」を実施すること次回の必須事項としたい。

運営委員会の評価



それぞれみなさんが大変な中、私たちがスムーズに議論できるようにと、ずっと会議を重ねてきてらっしゃったので、すごく疲れてるんじゃないかと勝手に思っていました、疲れていても、きつい顔一つせずサポートや運営を中心に行っていらっしゃったので、カッコいいなと思って見ていました！物事をスムーズに動かしている姿を見て、良い意味で衝撃をたくさん受けました。

とても、親身に相談にも乗っていただけてとても良かったです。

我々がすべきことの方向性を明示して頂けました。

ファシリテーターの委員と本当に意思の疎通が計れていたのか？と感じました。もっと各プログラムの実施の意図を伝えて欲しかったです。

皆様、いい方々でとても感謝しているし楽しい企画でした！せっかくの機会だからもっと…交流する時間がほしかったです（泣）ありがとうございました。

<ファシリテーター>

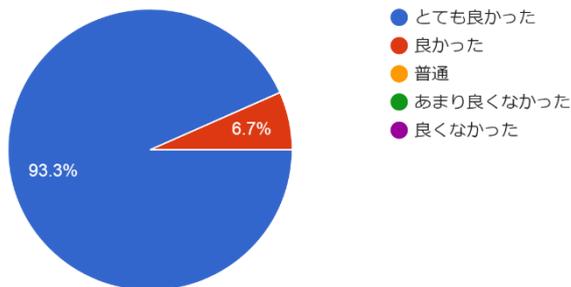
90%以上のスカウトが良い、とても良いと回答してくれている。

スカウトは参加者でありながら、委員のことをとても気にかけてくれていたのだな、とコメントから感じる。感謝の言葉が並んでいるのが印象的である。「資料が送られてきていない(参加のしおり等)」というコメントがあるので、次回以降漏れがないようにしたい。

<運営委員長>

私たちが思っている以上に参加スカウトは運営委員の姿を見ていることを実感した。運営スタッフをローバー年代で実施することの価値を再度認識することができたとともに、今後もベンチャースカウト年代に様々なローバー年代の在り方、活動、人がいることを知り、各々のスカウティングなどに活かしてもらいたいと思う。

ファシリテーターによる支援



本当によかった わからない所も直ぐに解消出来たしとても感謝してる。

私たちの考えをサポート(支える)という形で関わっていただけたことでより理解が深まりました。

厳しいところと優しいところがあって、議論途中でもアドバイスや質問にも分かりやすく答えてくださって、議論を進めていく上で今回すごく大事な存在だったなと思いました。

山路さんのアドバイスや説明が簡潔で言葉づかいも分かりやすく、とても支えられました。

いつも見守ってくれて、必要な時に助言をくれるととても頼れるファシリテーターでした！

スカウト一人一人に対して適切な助言を頂きました。

上手く指導していただけてくれたおかげでスムーズに進められた。

自分の班の吉川ファシリテーターは素晴らしいアシストをしてくださいました。特に、我々が理解し難いと感じたことに関して分かりやすく、噛み砕いて説明して下さい、ディスカッションがスムーズに進行しました。

私は6グループでした。ファシリテーターは枝迫さんでした。枝迫さんは、私達ひとり一人のことをよく見ているし色々と気にかけてくれたり気軽に話しかけてくれたりすごく良いアドバイスまでしてくれてたくさん支援して頂きました。すごく明るくて笑顔がステキな方でした。すごく感謝しています。6グループのファシリテーターが枝迫さんで良かったです。私も枝迫さんを目指して今後のスカウト活動頑張りたいです。枝迫さん、すごく楽しい時間をありがとうございました。3日間お世話になりました！！色々ありがとうございました！

<ファシリテーター>

90%以上のスカウトがとても良かったと回答してくれている。スカウトの求める最低限の支援はできていたのだと思う。

<運営委員長>

スカウトにとって最も身近な先輩スカウトにあたるファシリテーターの評価が高く大変嬉しく思う。今後のアフターフォーラムの実施を含め、様々な面で頼ってほしい。

フォーラムの感想（自由記述・抜粋）

今回初めてフォーラムに参加しました。私はこんなに大きなところで代表として、会議することにとっても緊張を感じていました。けれど初めのアイスブレイキングから始まりいくつか私の緊張をほぐしてくれのおかげで私は今回の会議を楽しくそして真剣に参加することが出来ました。本当にありがとうございました！

なかなか参加できる物じゃないので自分にとって、これからのスカウト活動にとっていい刺激になりました。最初は不安ばかりでしたがファシリタの皆さんや各県の代表の方々と話していくうちに緊張も解け、楽しく論議をすることが出来ました。22SFに参加できて本当に良かったです！一生忘れないボーイスカウトの思い出になりました。ありがとうございました！

自分が想像していた以上のレベルのスカウト達で、分科会などでは戸惑うこともありましたがとてつもない刺激をたくさんうけました。人生において、またボーイスカウト活動において忘れられない経験をしました。県代表として県に持ち帰ってしっかり任務を全うします。運営委員の方々、ファシリテーターの方々、日連の方々、地元のリーダー、両親。お世話になった全ての人に心から感謝しています。ありがとうございました。2年後、またその後に、ここで集まったメンバーとまた全国フォーラムで、それぞれの立場で再開することができたら嬉しいです(@_@)

本当に本当に楽しかったし、とても良い経験ができて良かったです！今まで知らなかった事を知る事ができて、また多くの友達も作る事ができて、本当に県連盟で頑張っ代表になって良かったなと感じられるそんなフォーラムでした！貴重な経験をありがとうございました！

簡単に言うとやっぱり視野が広がったり新しい友情が生まれてよかった。同じ考え方同じ悩みのあるスカウトと話し合い交流・共有するのはとてもよかったと思います。また会いたいです。

もう少しゲームの時間や自由時間などを増やして欲しい。

最高に楽しくて、タメになるという素晴らしいものを用意していただき、そして参加出来て大変光栄です。アフターフォーラムでの活動を軸に、府の方でも取り組んでいく所存です。本当にありがとうございました！

自分のスカウティングだけでなく、人生の中でかけがえのない経験となりました。素敵な仲間にもたくさん出会って心から参加してよかったと思います。そして、ローバーの方々には本当にかっこよくて憧れます。責任をもって県でも行動していきたい。全国フォーラムに関わった全ての人、施設、ものに感謝します。ありがとうございました。

今回のフォーラムを通じて、全国の仲間たちとの"つながり"を作ることができました。今後はこのつながりを全国にひろげていくため44人一丸となって活動していきたいです。

新たな価値観を知り、良いところを取り入れることができました！全てが貴重な経験となりました。また、ボーイスカウトの中で各都道府県1人ずつが集まる場というのはここしかないのも、かなり新鮮でした。ありがとうございました！

色んな地域の人達と意見を交換することで、自分には知らないようなことを教えてもらったことがよくありました。やはり、こういった機会があることは、自分達が社会で貢献するための重要なものであると思います。このフォーラムに参加し、たまに協議し合うことですでに社会貢献になっていると感じました。今後はより積極的にこういった行事に参加したいです。

資料③ワークショップ概要

講師：日本ファンドレイジング協会 大石 俊輔

内容：社会貢献を巡る現状と NPO と共同してできる社会貢献

スカウトが接する地域社会として、学校や地域の自治会、塾やアルバイトなど、ボーイスカウト以外にも何かしらの関わりを持っているものもいる中で、地域の課題解決に取り組む NPO 等の団体（NGO、財団、社団、社会福祉法人など）が活動していることを共有した。

前半パートでは、スカウトのこれまでの経験の共有と、寄付とボランティアの2つの行動が社会貢献を構築しており、自分の考える社会貢献をまとめた。

後半パートでは、そこから地域の課題そのものを認識して、スカウトとしても地域社会の一員としても、自分たちが課題解決に寄与するきっかけとすることになった。

社会に貢献するワークショップ：基礎編（前半パート）

1. 導入アイスブレイク

実際できる社会貢献をクイズ形式で紹介し、参加者からの参加を得ながら実施できた。身近なことの延長線上に社会貢献が位置付けられることを認識してもらった。

2. 展開ワーク：あなたの経験は？

最初のワークとして、主にスカウト活動を通じた、身近な人に役立った経験とその時の気持ちを書き出し、グループで共有し、全体共有することで、様々な経験と視点を共有した。スカウト活動から得られた経験が多かったがそれ以外にも個人的に行った経験なども交えられ、参加者の認識を揃え、次の展開ワークへの準備を整える事ができた。

3. 展開レクチャー：社会貢献の現状

寄付とボランティアの2つの行動で社会貢献が成り立っていることを伝えた上で、様々な社会貢献の方法を重ねて伝えた。自分たちの活動の幅を考えるきっかけを提供できた。

4. まとめワーク：あなたにとって社会貢献とは？

自分たちのしてきた体験と気持ちを振り返ることに加え、様々な社会貢献活動を知ることで、一旦、自分の考える社会貢献をまとめてもらった。ここまでで社会貢献についての認識の共有と知識を揃える事ができた。

社会に貢献するワークショップ：応用編（後半パート）

5. ガイダンス

6. NPO 紹介

4つのNPOから、活動紹介と課題を提示してもらい、参加者に投げかけた。具体的に話題提供できたことで、参加者が活動イメージをつかめた。

ACE

児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOとして、インドとアフリカ・ガーナで子どもを支援し、日本で市民や政府、企業に働きかけ、ソーシャルビジネスなどの社会貢献活動を行っている。

サードプレイス

地域で暮らす子どもたちや大人に対して、子どもの居場所づくりや「生き抜く力」を身につけるための体感・体験・学習に関する事業を行っている。

日本補助犬情報センター

補助犬の社会における理解と普及を目指した活動とともに、障害者の社会参加・社会復帰を推進する事を目的に、第三者機関として中立の立場から相談・情報提供を行っている。

国連WFP協会

飢餓と貧困の撲滅を使命とするWFP国連世界食糧計画を支援する認定NPO法人で、日本におけるWFP国連世界食糧計画の公式支援窓口を担っている。

7. NPO へのヒアリング

グループごと、どのNPOのテーマを考えたいか決め、課題についての理解を更に深められた。

8. まとめ

KJ法でアイデアを分類し、まとめ作業を行った。どのグループでも考えを整理し発表に向けて適切にまとめられていた。

9. 発表 & 公表

各グループとも時間内で、発表を適切に行えた。考えられていた内容は、それぞれの視点でよく考えられ、スカウト活動との連携も具体的に示されていた点が高く評価できた。今回の目的としたスカウト活動以外の地域課題解決団体のことを知り、それに自分たちも寄与できること、が良く理解され体現されていた。

10. 振り返り

2日間に渡った活動を個々人で振り返りを行った。※時間外での実施

改善点

- 前半パートの展開ワークの際、想定以上の量のワーク結果が得られたので、この部分をもう少し深掘りして、長めに時間を確保して展開していくことも次の展開としては考えられる。もう少し根源的な問い掛けにして「社会に貢献することはなぜ必要？なぜ大事？」ということディスカッションしていく形でも展開できると感じた。特にスカウトは日頃より社会貢献につながる活動を行っているため、通常の学校とは異なり、その活動の意味や価値を振り返るといような、意味づけを行うワークの形がより適切だと感じた。
- 前半パートの展開レクチャーでは、寄付やボランティアの方法を伝えるというよりは、もう少し大きな枠組みで、日本の寄付ボランティアの動向を白書のデータなどを交えて伝えた方が適切であった。
- 後半パートの発表の際、想定以上に質疑応答が活発に行われたため時間オーバーになってしまった。しかしながらこれは、参加者がよりワークの意味を理解し取り組んだ証左でもあるため、このパートも次回は長めにとり深めることが必要と思われる。
- 例年の基調講演の時間を超えてプログラム展開を行ったことにより、テーマをより深く考えるという意味では一定の評価はあったと考えられる。一方で県連盟を代表するスカウトとしては、与えられたテーマでの議論を十分に行いたいという評価もあった。時間配分や展開方法については今後も検討する余地があると考えられる。

第22回全国スカウトフォーラム実施報告書

2019年4月

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3

TEL : 03-6913-6262 / FAX : 03-6913-6263

E-mail : program@scout.or.jp

HP : <https://www.scout.or.jp/>